

令和8年度第6回 感染症発生動向調査協議会

議事概要

1 日 時 令和8年9月16日（水） 14：00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員：馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 感染制御室 室長）
澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授）
川本 典生（岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 臨床教授）
加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター 院長）
和泉 孝治（岐阜県産婦人科医会 岐阜地区 理事）
高橋 義人（岐阜県総合医療センター 中央検査部部長 兼 臨床検査科部長）
オブザーバー：市原 拓（岐阜市保健所 感染症・医務薬務課 感染症1係長）
事務局：杉山 恵里（感染症対策推進課 感染症対策監）
宮川 紀子（感染症対策推進課 感染症対策係長）
松岡 真史（感染症対策推進課 技術主査）
酢谷 奈津（保健環境研究所 疫学情報部長）
野池 真奈美（保健環境研究所 主任専門研究員）

4 議 題 （進行：馬場委員）

- （1）前月の感染症発生動向について
- （2）検討すべき課題
- （3）情報提供すべき事項
- （4）情報提供

5 議事概要

（1）前月の感染症発生動向について

- ・事務局から8月分の感染症発生動向調査結果について、集計表及び統計グラフ資料に基づいて説明を行った。
- ・月番委員から月番委員作成資料に基づいて発生動向に対するコメントがあった。

【意見交換】

- （委 員）新型コロナウイルス感染症の報告が中濃圏域で多く、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告は飛騨圏域が多いようです。これは、検査を積極的に行っているからなのか、また定点の数が減ったことも影響しているのでしょうか。
- （委 員）実際に感染症が多く発生しているのか、検査数が多いため結果的に報告が多くなっているのかを見分けるのは難しいです。検査数が多い少ないに影響されないように陽性率で見た方がいいという議論もあります。しかし患者数自体も流行の指標としては重要であり、陽性率だけでも不十分と言えます。さらに、当該医療機関を受診する患者数にも影響され

ますので、定点調査では、その医療機関の性格によって大きく違ってきます。中濃圏域の定点には基幹病院もクリニックも入っていますか。

(事務局) 中濃圏域の定点は8か所で、一般のクリニックも基幹病院も入っています。その中で、他の医療機関よりも患者報告が多いクリニックがありますので、それも影響しているように思います。

(委員) 圏域内での流行の状況を経時的にみていくことが大切です。圏域ごとに、定点医療機関の数や性格が違うので、他の圏域や他県の状況と比較する時には注意が必要だと思います。

(2) 検討すべき課題

●ダニ媒介感染症について

・事務局から、全国及び岐阜県における日本紅斑熱と SFTS の最新の発生状況について説明した。

【意見交換】

(委員) 岐阜県内では、現在のところ、日本紅斑熱は岐阜市、各務原市、関市の辺り、SFTS は東濃地域が感染推定地ということですが、患者の住所地と感染推定地が異なる場合は情報の出し方に気を付けないと誤解を招く恐れがあります。発生動向調査の結果を、どのように住民に対する啓発や、行政の施策に生かしていくかが大変重要です。

●カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症について

【意見交換】

(委員) 昨年くらいから県内で、これまで検出されなかった OXA-48 型のカルバペネマーゼ産生菌が連続して検出されるようになっていて注意が必要です。これらの菌は、検査体制が充実した病院ではカルバペネマーゼ産生を確認できカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症として届出に結びつくのですが、検査できていない医療機関が多いため、届出されないものが隠れている可能性があります。カルバペネマーゼ産生が疑われる場合は、疑い例として保健所に連絡し、そこを通じて保健環境研究所で菌株を解析すれば確認できます。医療機関に対して、このあたりの注意喚起および確認の流れについて周知が必要と思います。

●病原体検出情報のフィードバックについて

【意見交換】

(委員) ダニ媒介感染症にしても、カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌については、既に述べたところですが、継続して情報提供、啓発を行っていく必要があります。ARI の病原体検出情報についても、大変有用な情報が隠れているように思いますので、より積極的な情報提供のあり方について検討いただければと思います。

(3) 情報提供すべき事項

●結核・呼吸器感染症予防週間（9月24日～9月30日）

事務局から、「ぎふ感染症かわら版～9月24日～9月30日は『結核・感染症予防週間』です」を9月17日に登録者へのメール配信及びHP掲載を行う旨を説明した。

【意見交換】

(委員) 日本は、結核の人口10万対罹患率が10未満の低蔓延国ですが、岐阜県は全国平均より罹患率が高くて、10以上になっています。事業所や医療機関に対して啓発が必要と思います。

(委員) この予防週間は、数年前に結核だけでなく、呼吸器感染症も含める形で名称が変わっています。高齢者の肺炎球菌ワクチンの接種率が低い状況ですので、65 歳 1 回だけのタイミングを逃さずに打つことが大切です。

●愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会開催に向けての感染症リスク評価

【意見交換】

(委員) このリスク評価の中で、愛知・名古屋 2026 大会において特に注意すべき感染症として、麻しん、中東呼吸器症候群 (MERS)、侵襲性髄膜炎菌感染症、腸管出血性大腸菌感染症が挙げられています。近隣の医療機関に大会関係者が受診することがあるだけでなく、麻しん等であれば二次、三次感染者が受診する可能性もあり、いろいろなことが起こり得ますので、注視していく必要があります。リスク評価書の中には、その他の感染症のことも書かれていますので、ご一読いただければと思います。

(事務局) 大会期間中、名古屋市、愛知県の主導で、平日の定例 Web ミーティングを毎日行っています。大会に関係する患者の発生があれば、その場で迅速に情報共有できる体制を整えています。

(委員) 何かあれば情報共有できるようにされているということですね。どの程度の影響があるかはわかりませんが、普段とは違う状況ですので警戒は必要だと思います。

(4) 情報提供

●月番委員会からの情報提供

- ・第 30 回日本神経感染症学会総会・学術大会 (2026 年 10 月 16 日 (金)・17 日 (土))

●感染症対策推進課からの情報提供

- ・記者発表資料: 「マダニによる感染症が頻発しています」
- ・県通知「ダニ媒介性感染症の予防啓発及び対策の推進について (協力依頼)」
- ・記者発表資料『『県内のインフルエンザ』の流行が始まりました』